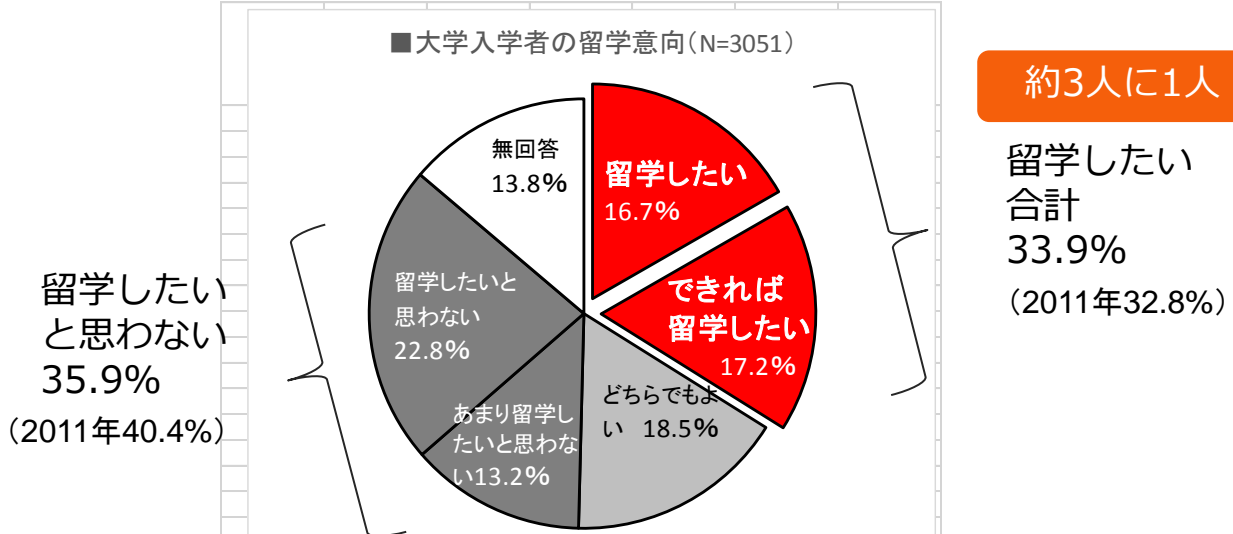


「高校生の進路選択に関する調査 進学センサス2016」 の調査結果に対するリクルート進学総研所長 小林浩の見解

リクルート進学総研では、全国高等学校PTA連合会と合同で高校生と保護者の進路に対する意識調査を実施しています。今年の調査結果から見えるポイントは以下の通りです。

<POINT>

- 1) 大学進学者のうち、留学したいと考えているのは3人に1人（33.9%）。2011年比で微増。一方、「留学したいと思わない」は2011年から40.4%→35.9%と減少しているものの、依然として「留学したい」を上回る。グローバル化が叫ばれるなかで、“留学派”と“非留学派”の2極化が進んでいる様に見える。全体では、まだ若干内向き志向の“非留学派”が優勢のようだ。
- 2) 留学したい理由の中で、唯一増加しているのが「就職の時に役に立つ、有利である」である。グローバル化が進む中で、留学することが就職に有利という認識が大学進学者の中に広がり、留学意向を刺激しているようだ。
- 3) その一方、留学したくない理由のトップ3=3大ハードルは、「費用が高い」「語学が苦手」「治安への不安」である。特に前回（2013年）調査から増加しているのが「治安への不安」だ。海外でテロ事件が相次ぐ中、特に女子において、治安への不安が増大している。留学の推進のためには、留学先でのリスク対策をどうしていくのか、大学のサポート体制が重要になる。



リクルート進学総研 所長 小林 浩 (こばやしひろし)

リクルート進学総研

PRODUCED BY RECRUIT

<プロフィール>

1988年(株)リクルート入社。早稲田大学法学部卒。グループ統括担当や『ケイコとマナブ』商品企画マネジャー、大学ソリューション営業、社団法人経済同友会出向(教育問題担当)、会長秘書、大学ソリューション推進室長などを経て、2007年4月より現職。文部科学省中央教育審議会初等中等分科会専門委員現、リクルート進学総研所長 兼、『リクルートカレッジマネジメント』編集長



<リクルート進学総研とは> URL : <http://souken.shingakunet.com/>

高校生、進路選択に関する調査研究機関として、以下の活動を行っています。

- ・全国の大学、短期大学、専修学校など、高等教育機関の経営層向けの専門誌『カレッジマネジメント』の発行
- ・高校の先生を読者対象とする進路指導、キャリア教育の専門誌『キャリアガイダンス』シリーズの発行
- ・高等教育機関、高校生、進路選択に関する各種調査の実施や社外に向けての情報発信

<取材にお答えできます>

- ・大学をめぐる政策動向全般について
- ・高校生の進路や将来についての価値観
- ・大学のブランド力
- ・高校生、保護者、高等教育機関についての各種データ
- ・マーケット動向や事例など、高校生～大学経営まで教育に関わる内容について幅広くお答えします。

【本件に関するお問合せ・取材のご依頼】株式会社リクルートマーケティングパートナーズ 広報

https://www.recruit-mp.co.jp/support/press_inquiry/

【本調査リリースの全文掲載はコチラ】リクルート進学総研 <http://souken.shingakunet.com/research/>

